

一般社団法人日本リハビリテーション学校協会

第24回教育研究大会・教員研修会

大会テーマ

「教育評価を考える」

プログラム・抄録集

会期 2011年 8月24日(水)～26日(金)

会場 アクトシティ浜松コンgresセンター

〒430-7790 静岡県浜松市中区板屋町 111-1 TEL 053-451-1111

主催 一般社団法人 日本リハビリテーション学校協会

共催 全国理学療法士・作業療法士学校連絡協議会

後援 一般社団法人 静岡県理学療法士会

一般社団法人 静岡県作業療法士会

静岡県言語聴覚士会



アクトシティ浜松

セッション3

11. 臨床実習の積極性評価と指導者との関係性について—短期実習の成績と学生アンケート調査から—

広島医療保健専門学校 理学療法学科

沖本 優明

Key words : 短期実習、アンケート、成績

【はじめに】本学科の臨床実習はこれまで、8週間を3施設で行っていたが、平成22年度より前段階として2週間の短期実習を組み込むこととなった。その経緯は、1期目の実習で実習開始から短期間で中断する学生が増えてきたことによる。実習成績の高い者と低いものとの間で実習に対する不安要因の相違を明らかにするため、平成22年度の基礎臨床実習終了直後の学生への実習に関するアンケートを実施し、その結果と実習成績との関係を調査・検討した。

【対象・方法】平成22年度に2週間の基礎臨床実習を終了した学生33名を対象とした。アンケートは実習中に得たもの、不安に感じたこと、嬉しかったこと、今後必要なことの4項目に関して自由に記載してもらい、回答内容を分類した。実習成績については平均点以上の者と以下の者に分け項目ごとの平均点を比較した。

【結果】実習成績について、平均点以下の者は以上の者に比べて、「知識・技術に対する探求心・意欲」「積極的な姿勢、自主課題の遂行」「検査・測定実施における事前準備」の項目で大きく下回った。アンケート結果では、実習中に得たものについて、平均点以上の者では「評価やその考え方が最も多く平均点以下の者では「患者とのコミュニケーション」が最も多かった。不安に感じたことについて、平均点以上の者では「知識・技術の不足」が最も多く、平均点以下の者では「バイザーとの関係性」が最も多かった。

【考察】結果から、実習成績の低さは、探究心・積極性の低さによるところが大きく、またその学生が不安に感じたことは、指導者と良い関係が築けなかったことであり、双方には関連性があることが伺える。実習においては積極的な行動が重視されるが、それを実行できなかった学生は、指導者との関係性に不安を感じ、また成績も低くなることが示唆される。学ぶための積極的姿勢は指導者との関係性及び成績において重要な要素であると考えられる。

セッション3

12. 臨床実習におけるストレスの視覚化—ストレスチェックの活用を通して—

医療法人 八女発心会 専門学校

久留米リハビリテーション学院 作業療法学科

井ノ口 征幸

Key words : 臨床実習・ストレス・Fish Bowl Index

【はじめに】最近の学生の特徴として打たれ弱さ、社会的スキルの不足があり、臨床実習において大きなストレスを抱え、改善できないまま実習が進み、中止や不合格になる学生が多い。その為、大きな問題が出る前に察知する方法が無いかを考えた。

【対象・方法】当学院平成22年度学生、作業療法学科学生（以下OTS）30名・理学療法学科学生（以下PTS）30名の計60名。時期は臨床実習I期（9週間）。Fish Bowl Index（以下、FBI）を用いて週1回のストレスチェックを行い、必要があれば実習内容以外でアドバイスをを行う。

対象群として平成21年度学生OTS23名・PTS32名の計50名及び平成20年度学生計66名を挙げる。

【結果】年々、評価表の平均点は下がっているものの、統計学的に有意差は認められなかった。中止者・不合格者数も有意な差は認められなかった。

【考察】実習というものは学生にすれば異文化体験といえるものであり、非常にストレスフルな体験である。実習における精神的ストレスは対象者や実習指導者との対人交流が大きな割合を占めると考える。また、学生は出来ない自分を知る事で落ち込み、積極性が出せなくなり、さらにストレスを感じるという負の連鎖に陥りやすい。今回、定期的なストレスチェックとしてFBIを使用し、学生・教員共にストレス状況を視覚的に確認できる環境を作った。有効性は認められなかったものの、学生からの意見は概ね好意的なものであり、教員としても悩んでいても相談出来ない学生の状況確認ができる点は非常に有用であったと考える。有効性が認められなかった原因としては①学生の持つ状況判断能力の差が大きい事、②FBIの設問項目が医療系実習のような特殊状況に対応しきれていない事の2点が挙げられる。今後はグループワークの強化等、学内指導も含め内容の充実・改善を行い、より実りの多い実習となるようにしていきたい。